

BBCワールドチャンネルによる玄葉大臣インタビュー（報道振り）

●10月18日付BBCワールドチャンネル・番組「ニュースデイ」

日本の玄葉外相が本日英国に滞在し、（プレゼンターの）バビータ・シャーマとBBCのインタビューを行った。同外相は尖閣諸島購入決定は現実的なものだったとして政府の決定を擁護した。

【玄葉大臣（以下、大臣）】尖閣の島々が我が国固有の領土であることは、歴史的にも、また国際法の上でも疑いようのない事実である。非常にわかりやすく言えば、1968年に国連のレポートで石油の埋蔵の可能性が発表された後、1971年になってから中国も台湾も領有権を主張し始めたということである。

【シャーマ氏（以下、プレゼンター）】なぜ日本政府は、尖閣諸島を国有化することを決断したのか。東京都知事の挑発的な計画により、そうすることを余儀なくされたということではないのか。

【大臣】国による取得・保有を決断をした背景には、石原都知事が島を買い取ろうとしたということがある。石原都知事は、その利活用について大々的に行うということを公言していたので、政府としては、日中関係をマネージするのにマイナスの影響が出ることを懸念するとの判断が働いたというのは事実である。

【プレゼンター】結果的に国際的・外交的な対立となっている日中間の争いがあり、日本政府が現在置かれている状況は明らかによくない。都知事の計画を妨げることは間違っていたのではないか。政府の判断は間違っていたのではないか。

【大臣】もし政府が取得・保有をしなかったらどうなっていたかということを考えなければならぬ。所有者は、既に、誰かに売るということを決めていた。おそらく都が購入したことだろう。

【プレゼンター】私の質問は、現在日本が置かれている外交上の状況に鑑みると、日本政府が都知事の計画を妨げたことは間違っていたのではないかということである。中国との国際的な争いは政府の判断の間違いから生まれたのではないか。

【大臣】結論から言えば、国が取得・保有していなかったら、もっと悪い状況が生まれていただろうということだ。今頃石原都知事はおそらく尖閣に上陸していたと思う。したがって現実的な選択肢であったというふうに考えている。だが、この事態をなんとか平和的に鎮静化させること、そして不測の事態を回避することが非常に大切である。ただ、もちろん、譲れないものは譲れない。